全員當選を期して

参議院議員 地方議員 第一次公認を決定

われわれは三十一年七月、平和憲法擁護を主目標に参議院選挙を闘い、遂に改憲を阻止するに足る三分の一を獲得することが出来た。しかしながらその後、離脱者や死亡者等があり社会党独自としては未だ三分の一に、一名の不足の状態である。

また福岡県に於ては、三十年選挙で知事を保守自民党に奪われたため、従来社会党と共同戦線にあつた中間三派はことごとく保守陣営に走り、終戦以来もち続けて来た革新の優位は崩れ、逆転した。爾来、福岡県における自民党は土屋知事を頂点とし、与党優勢にものを云わせ、県政を私有物化し勝手気ままに振る舞い、遂には県の最高主脳部並に県決議機関の長、金融機関など県の中枢、即ち政財界を含む大汚職事件を引き起し、更にこれを糊塗するため、県職の分裂を策動、組合幹部の首切り、全日自労に対してもあくなき弾圧を加え、今日に至つては勤務評定にことよせ、殊更に福教組に挑発をかけこれが弾圧にのり出して来ている。

更に大牟田市は三十年選挙で市長をわが手中に収め得たが、三井独占資本のテコ入れで中間派は保守陣営に走り全員自民党に走り、遂に与党化工作は不可能となつた。爾来、今日に至るまで市執行部が提出した重要案件は総て否決され特に三井の利害に関係するものはそれが市民生活に重大な影響を及ぼすものであつても何等考慮することなく、彼等は一蹴して来た。これがため眞の革新市政を実現することなく今日に至つている。

このような情勢の中で、大地評は明るい民主政治確立を期して選挙戦に臨む決意を以て、過半数獲得を目標に、定期大会で左記候補を第一次公認とした。

大地評では十一月中に第二次公認引きつづき推薦候補を決め全員当選を期して選挙戦に臨むべく準備をすすめている。

参議院議員公認推薦候補

全国区　公認　阿員根　登　炭労　(社会党)
福岡県地方区　推薦　吉田　法晴　団体役員　(社会党)
熊本県地方区　推薦　百武　秀男　全食糧　(社会党)
全国区　推薦　豊瀬　禎一　日教組　(社会党)

福岡県知事候補

推薦　林田竜雪　会社重役　(社会党)

福岡県会議員候補

福岡総評で決定した候補を大地評推薦とする。

公認　小宮市太郎　市教組　(社会党)
公認　川口六平　化学　(社会党)
公認　浦川甘　炭労　(社会党)

熊本県会議員候補

公認　酒井善為　炭労　(社会党)

大牟田市長候補

公認　細谷治嘉　三池　(社会党)

大牟田市議会議員候補

公認　山崎末光　東庄　(社会党)
公認　谷山勇　市教組
公認　土亀正男　電化
公認　堀円治　三池　(社会党)
公認　渡下常雄　三池
公認　原田明吉　三池
公認　千永栄吉　三煙　(社会党)
公認　大藪徳男　合成
公認　山本勇太郎　中小　(社会党)
公認　遠尾信次郎　三鉱　(社会党)
公認　小宮生計　三鉱
公認　野方重男　三鉱
公認　松本勇　三鉱
公認　広沢修功　三鉱　(社会党)
公認　月足康則　三鉱　(社会党)
公認　中川末義　三鉱　(社会党)
公認　辻辰美　三鉱
公認　石橋進　三鉱

荒尾市議会議員候補

公認　坂本徹雄　三鉱　(社会党)
公認　小森隆一　三鉱　(社会党)
公認　橋本英信　三鉱　(社会党)
公認　田中常夫　三鉱　(社会党)
公認　益田武利　三鉱　(社会党)
公認　川野利丸　三鉱　(社会党)
公認　牛島元義　三鉱　(社会党)
公認　浦浜真光　三鉱　(社会党)
公認　前川高之　三鉱　(社会党)
公認　福川次郎　三鉱　(社会党)
公認　藤木幸博　三鉱

三池郡高田町議会議員候補

公認　猿渡景一　三煙　(社会党)
公認　中川原末松　三鉱　(社会党)
公認　塚本宗雄　三鉱

大会宣言

いま日本は平和と民主主義の重大な危機に直面している。戦の犠牲と焦土の中からわれわれが闘いとつて来た民主主義的諸権利はアメリカ帝国主義と屋内閣、独占資本の手によつて一挙に破壊されようとしている。

中東に於て、台湾に於て、国際的に孤立しているアメリカは国際的な独占資本、国内に於ては日本の独占資本の内部矛盾と行詰りを彼等の最後の手段としてそれに抵抗する一切の民主勢力の運動を弾圧しようとして出されて来たのが今回の警職法の改悪である。従つて、われわれは如何なることがあつても、このような警察国家を再現し軍事的侵略体制をつくり国民の生活と権利を破壊する日米帝国主義者と独占資本の陰謀を許すことは出来ない。

われわれのこの固い決意は、労働者階級を中心に、職場で、地域で、そして全国で広範な統一行動を組織し全国民的な闘争として発展させることに成功した。

今や、総評、全労、新産別、中立組合等の労働組合を中心に宗教団体、学者、文化団体、青年婦人の団体等全国で六十余の団体が警職法反対の闘いに起ち上つている。いまわれわれにとつて最も重要なことは、およそ自分の精力と能力のある限りすべてをこの闘いに打ち込むこと以外に途はないし、従つて今回の警職法の闘いこそ真に妥協なき闘いである。

われわれがこの警職法の改悪を許すならば、日本の民主主義は否定され、われわれの前途には重く長い黒幕が永遠に下され日本は再び戦争と破壊の道をたどるであろう。

われわれはこの緊迫した情勢の中で国民各層に更に広範な結集と協力を訴えると共に、今後ともわれわれがその先頭に立つて闘うことを固く決意し、誓うものである。

右宣言する

一九五八年十一月五日
警職法改悪反対
大牟田地区市民大会

ハネ返す妨害、圧迫

大牟田地区・五日の闘争

警職法改悪に反対する大牟田の労働者のたたかいは、去る五日の全国的統一行動の日に非常なもりあがりを見せ、まず三鉱労組の二十四時間全面スト、三煙の同上のスト、国鉄大牟田支部の職場大会、あるいは三池の一時間スト、その他各労組の職場大会、そして最後には四万の労働者を動員した決起大会というように、実力行使をおりまぜての闘争をやつた。

しかし、このようなたたかいも、卓越した力をもつ三鉱をのぞくその他の組合は、当然ながら経営者そのほか権力につらなる側からの圧迫妨害なしにはできなかつた。三池の場合、会社は「五日のストは政治ストで違法だ。きびしく責任追及するかもわからない」と前もつて警告したし、また三池、三煙などストライキ通告を手交しようとすると会社側はいい合せたように、

「どんな不法なスト通告は受けとれぬ」

と頑強にこばみ、組合側との間にスッタモンダのやりとりが見られたといわれる。

国鉄の場合は、さらに厳重をきわめた。問題の五日が近づくと、熊鉄管理局長名をもつて全職場しらみつぶしに、

「こんどの統一行動に参加する者は、厳重に処分する」

との警告書をくばり、職場大衆に精神的重圧を加え、立ち上りを妨害した。

しかし他の組合がそうであつたように、国鉄大牟田の組合指導者や職場活動者は勇気をふるい起して公安官の姿もチラチラする各職場をまわり、あるところでは説得しあるところでは誘導し、ときには職場にしがみつく組合員に団結の必要をうつたえ、そして計画された通りの職場大会が実施できた。その際スト中の三鉱の労働者が、献身的協力ぶりを示したことは特記されよう。

このように、大牟田の労働者はそれぞれ手をかえ品をかえての圧迫妨害をハネ返して、真に国民の自由と権利を守るたたかいのなかで価値多い役割を果した。

ヤミ取引された

警職法の本質をしろう

〃西鉄ついに逆転勝。日本選手権は西鉄ライオンズがにぎりました〃野球ファンをわかせ、その目その耳が野球試合に集中されているとき、各会社の上部団体である「日経連」の幹部は秘密裡に自民党の某会長と会見し「警職法は是非国会で成立させてくれ。軍資金はなんぼでも出すから」とハツパをかけ「これが成立すると同時にうらみかさなる炭労を今度はコツパミジンにタタキつぶしてみせるぞ」とうそぶいていたという。

自民党の某は「勤務評定はモタモタしているが、あと一息圧力をかけて日教組をガタガタさせ、強行実施すれば五年後は楽しみだ。教師はおとなしくなるし、子供の教育はわれわれの思うままに国定教科書で軍国思想をうえつけさせ警職法で労働組合をぶつつぶすとアメリカとの相互防衛は万全じゃよ」と構想をのべていたということが伝えられている。

警察法はこうしたヤミ取引きの結果、国会には「公共の安寧と秩序を守るため」という美文にぬりかえられ、国会の議事運営委員会にもはからず、突然提出された「警職法」はその性格を十分あらわしている。

× × ×

都立大教授の戒能通孝氏もいつているように「なぜ恐ろしい法律なのか」多くの組合員の方は知つておられると思うが「どんなものか、わからん」という人は一目でよいから「警職法改正案」を読んでほしい。国会で自民党がどんなことをいつているか、社会党はどういうことをいつているか知つてほしいと思います。政府の目の上の「タンコブ」は労働組合であり、この運動を対象にしていることは明らかである。この法案が成立すれば、賃上げ、一時金闘争をなんてトンデモナイということになり、会社のいうとおりの「御用組合」となり彼らの思うツボになつてしまうことは明らかである。

× × ×

三鉱労組の組合員の方が体験されたように、スト規制法という悪法が国会を通過した翌日、三鉱労組の「首切り」が発表された。警職法が成立すれば、日経連は「炭労はじめ総評系の組合退治」の大弾圧がはじまるであろう。

× × ×

まさしく世紀の大悪法を自民党が強行に国会に提出したのは、アメリカの前進基地としての日本を彼らに売り渡すためのものであり勤評問題とも切りはなせないものである。平和憲法に違反するこの悪法を阻止することが当面われわれ秋季一時金に結集された任務であり、われわれの一時金闘争はこれで終りとなるかも知れぬことを銘記せねばならぬだろう。

（東庄労組　風斗　長）

宮城前でまる腰の労働者に発砲する武装警官
（27年メーデー）

少数組織人員を克服して

地方選挙へ立ち上る

合成労組

三池合成労組では、このほど定期総会を開き一九五八年度の運動方針を決定したが、この審議の中で来春の地方選挙に対する大地評の公認候補選出が特に全組合員の間で心配され紛糾した。

その問題点として組合員から出された点を集約すると、

(1)組織人員が少ないので当選困難ではないか。

(2)会社代表との対決で組織があらされはしないか。

(3)もし落選すればいままでの組合の権威と名誉が失われる。

などであつたが、いちおうそういう心配を克服して運動方針の決定がなされたので同労組執行部は、前項のような困難をのりきるために連日職場オルグをつづけ組織の強化をはかつている。

現在同労組の大牟田市の組合員数は約六〇〇名たらずであり、家族をふくめても相当の苦しい闘いが予想され、くわえて三交クラブに属している会社代表が来春も出馬するため、組合への切崩しもはげしくなるものと思われる。

このような見透しのうえに立つた同定期総会では、労働者の階級的な連帯性の上に立つて、選挙戦を強力に闘い抜く決意の半面、少数組織人員のため地評執行部への強い協力要請もでている。

一部保守議員、警職法改悪の看板を下す

去る十月二十八日の統一行動の中で市労連は臨時大会を開き、警職法改悪に反対して「非常事態宣言」を発し、庁舎に「警職法改悪反対」のカンバンをあげ、玄関横の組合掲示板に宣言文、マンガ、ステッカーを掲示した。これに対して市議会内の保守派の一部有力議員が圧力を加え、市当局は圧力のためにカンバンを強引に下した。

さらに組合掲示板に掲示した宣言文等は政治活動（警職法改悪の署名やカンバン等は法的には政治活動とならない）だとして圧力を加えているが、当局も政治活動だとして掲示を下すことが出来なかつた。しかし十九日の朝、警職法改悪反対の掲示が何者かに取りはずされていた。

来年の改選をひかえ、組合の権利闘争に対して一部の市議が中央の動きと一連のつながりの中で弾圧の挙に出ており今後露骨化する要素を持つており、市労連ではその対策を練つている。

時の言葉

變則国会

八日以後の国会の状態を新聞は、〃変則国会〃といつている。だが自民党の〃延長議決〃がインチキで無効であることはつきりしており、臨時国会は七日で完全に終つている。〃変則〃もなにも八日以後はないのだ。だから社会党が八日以後登院しないのはあたり前の話。〃国会ボイコット〃という新聞の表現も正しい言い方とはいえない。

これらはいずれもとにかく国会が開かれていることを前提としていることばだ、こんな〃変則報道〃はやめてもらいたい。

議会主義

最近の緊迫した政治情勢にからんで商業新聞は「議会主義を守れ」「社会党は議会主義政党であれ」と主張している。これには社会党が院外の大衆行動のもり上げに努力するのは、〃議会主義〃政党として正しくないという意味がふくまれている。

政治をすべて議会の中だけで行おうとする議会主義の考え方は、国民は四年に一回の選挙の日だけが主権者であり、あとは議会に白紙委任することに通じている。正しい議会政治とは少数派の立場も尊重し、国民のその時の意向も十分くんで討論しあうことだ。

議会政治をふみにじつているのは政府、自民党であり、彼等や新聞がいい出している〃議会主義〃は国民の闘いと民主政党の間をたちきり、政治を政党間の取引にしてしまおうとするワナである。